

歴史ある運河をきれいに 横浜運河パレード

水質調査でプラナリア発見



横浜で歴史ある運河の美化と利用を呼びかけるイベント「第5回横浜運河パレード（主催・NPO法人Hama Bridge濱橋会）」が先月21日に開催された（写真）。分析機関・オオスミ（横浜市・大角武志社長、045・924・1050）は今回初出席し、顕微鏡観察のワークショップで、きれいな水にしか住まないと知られる

る扁形動物のプラナリアが運河で採取されたことを明らかにした。横浜市の旧市街地は、北に大岡川、南に中村川と二手に分かれ東京湾に注ぐ中洲に新田が開発された歴史を持ち、今年はその点の「吉田新田」誕生から350年目にあたる。西河川は運河として横浜旧市街を水運で担っていたが、運輸が陸上転換されたことで一部が埋め立てられ、汚染が目立つようになった。濱橋会は、西河川の運河としての利用やカヤックなどのレジャー利用の促進を目指し、ごみ拾いなどの美化活動を実施。毎年10月にイベントを開催している。

新たに始まった「運河の水を徹底的に綺麗にするプロジェクト」では、大岡川と中村川、堀川の3河川を対象に、「気持ちよく泳げる運河」を目指すさまざまな活動を行う。その一環で、オオスミと濱橋会が2月に行った水質調査では、大岡川で環境基準（B類型）を達成していた（表）。

今回のイベントで、オオスミは子供向けの「運河水質ワークショップ」を開催。上流の笹下川と日野川が合流し大岡川になる地点の青木橋採水点から採取した微生物を監察した結果、プラナリアが見つかった。

また、濱橋会は飲料や調味料、肥料のCODやアンモニウムイオン、リン酸イオンなどの簡易分析を行い、参加者らへ河川環境への意識を啓発した。川沿いの公園などでみを集める「クリーン大作戦」に参加したボランティア約30人のリーダーは、「用意したごみ袋が足りなくなるほど集まった。人通りが多い駅周辺に多い。禁煙条例でポイ捨てたばこは減ったが電子たばこの箱を良く見ると、来月9日が100回目のごみ拾いとなる」と話した。

採取場所	—	大岡川源流域	青木橋付近	長者橋	亀の橋	大岡川 環境基準 (B類型)
採取日	—	2017年2月21日	2017年2月21日	2017年2月21日	2017年2月21日	—
採取時刻	—	9:42	11:19	13:51	14:52	—
天候	—	晴	晴	晴	晴	—
気温	℃	7.8	9.1	8.0	9.1	—
水温	℃	6.4	9.7	10.0	10.5	—
水素イオン濃度 (pH)	pH	8.0	8.3	8.2	8.1	6.5以上 8.5以下
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/l	0.8	1.5	1.2	0.9	3mg/l 以下
浮遊物質 (SS)	mg/l	1	2	3	1	25mg/l 以下
溶存酸素 (DO)	mg/l	11.1	13.1	10.5	8.8	5mg/l 以上

資料提供/NPO法人濱橋会・オオスミ